

生 理 生 態

第 17 卷

第 1・2 合併号

森 主一・森下 正明 両教授退職記念号

編 集

川那部 浩哉・三 浦 泰 藏

編 集 協 力

滝 明 夫・村 上 興 正

1 9 7 6 年 4 月

生 理 生 態 刊 行 会

森下正明教授著作目録

SCIENTIFIC PAPERS OF PROFESSOR DR. MASAOKI MORISITA

1936年

シジミテフを蟻の巣の中で見出した事. 関西昆虫学雑誌, 4 : 11—12.

1939年

トビイロシワアリと他種の蟻との戦闘に就いて. 関西昆虫学会々報, 8 : 127—138.

樹上に於ける数種蟻類の相互関係に就いて. 同上, 9 : 22—42.

蟻の活動の日周期(I). クロヤマアリの活動. 生態学研究, 5 : 105—116.

同上(II). トビイロケアリの活動. 同上, 5 : 179—184.

1940年

蟻の垂直分布と水平分布, 特に分布境界線の問題. あきつ, 2 : 153—157.

乗鞍岳の赤蟻ども. 山小屋, 106 : 53—59.

1941年

ケバクロオホアリに就いて. むし, 13 : 93—96.

運動性の大きな動物の密度調査に対する框法の適用. 生態学研究, 7 : 63—73.

樹上に於けるクロヤマアリと他種の蟻との関係. 昆虫, 15 : 1—9.

ポナペ島の印象. 京都帝大農学部遺伝学研究室時報, 2 : 72—75.

1944年

島民. 「ポナペ島, 生態学的研究」(今西錦司編), 125—314, 彰考書院, 東京.

1945年

蟻類. 日本生物誌第5巻「昆虫」下, (古川晴男編), 1—56. 研究社, 東京.

北海道南端の蟻. むし, 16 : 21—28.

1950年

ヒメアメンボの棲息密度と移動. 京大生理生態研究業績, 65 : 1—149.

1951年

下水溝の生態(可児藤吉論文に対する註). 生物学, 3 : 84—90.

1952年

アリジゴクの棲息場所選択(予報). 日本動物学会九州支部会報, 6 : 1—5.

漠河隊. 「大興安嶺探検」(今西錦司編), 233—332. 毎日新聞社, 東京.

棲息場所選択と環境の評価, アリジゴクの棲息密度についての実験的研究(1). 生理生態, 5 : 1—16.

1954年

Estimation of population density by spacing method. Mem. Fac. Sci., Kyushu Univ., Ser. E (Biol.), 1 : 187—197.

分散と個体群圧力, アリジゴクの棲息密度についての実験的研究(II). 日生態会誌, 4 : 71—79.

1955年

属数と種数の関係について. 生理生態, 6 : 118—126. 個体の分布と環境. 生物科学, 8 (特集号) : 53—55.

1957年

どのような空間分布の個体群に対してでも適用できる間隔法利用密度推定法. 生理生態, 7 : 134—144.

1959年

Measuring of the dispersion of individuals and analysis of the distributional patterns. Mem. Fac. Sci., Kyushu Univ., Ser. E. (Biol.), 2 : 215—235.

Measuring of interspecific association and similarity between communities. Ibid., 3 : 65—80.

動物統計生態学. 「現代統計学大辞典」(中山伊知郎編), 528—535. 東洋経済新報社, 東京.

1961年

動物の環境評価. 「動物生態学」(宮地伝三郎他著), 83—97. 朝倉書店, 東京.

動物の個体群. 同上, 163—262.

1962年

I_2 -index, a measure of dispersion of individual. Res. Popul. Ecol., 4 : 1—7.

1964年

Application of I_2 -index to sampling techniques. Ibid., 6 : 43—53.

1965年

The fitting of the logistic equation to the rate of increase of population density. Ibid., 7 : 52—55.

A revision of the methods for estimating population values of the index of dispersion in the I_2 -method. Ibid., 7 : 126—128.

1966年

The relation between variance-mean ratio and mean. Ibid., 8 : 60—61.

1967年

京都近郊における蝶の季節分布. 「自然, 生態学的研究」(森下正明・吉良竜夫編), 92—132. 中央公論

- 社, 東京.
- 動物群集における個体重と個体数との関係. 「陸上動物の個体数現存量調査法の研究」(森下正明編), 1966年度研究報告, 35—37.
- 1968年
カモシカ密度の推定法. 同上, 昭和42年度研究報告, 3—10.
- 1969年
サンプリングのための理論的基礎. 「カンキツ病害虫の共同防除の合理化に関する研究」(九州果樹病害虫共同防除研究協議会編), 4—16. (小野勇一と共著)
そうか病の発病度判定による病樹密度推定. 同上, 83—93. (山本滋と共著)
生産に関する諸量と諸量間の関係. 「陸水生物生産研究法」(陸水生物生産測定方法論研究会編), 345—357. 講談社, 東京. (川那部浩哉と共著)
生産量測定法. 同上, 357—367.
- 1970年
糞利用によるニホンカモシカ密度の推定法. 「陸上動物の個体数現存量調査法の研究」(森下正明編), 昭和44年度研究報告, 72. (村上興正と共著)
ニホンカモシカの生態学的研究. 「白山の自然」(白山学術調査団編), 276—321. (村上興正と共著)
ニホンツキノワグマの習性と個体数推定. 同上, 322—329. (水野昭憲と共著)
白山における中・小哺乳類について. 同上, 330—334. (村上興正と共著)
- 1971年
Measuring of habitat value by the “environmental density” methods. “Statistical Ecology 1. Spatial patterns and statistical distributions.” (ed. PATIL, G. P., PIELOU, E. C. & WATERS, W. E.), 379—401. Penn. Stat. Univ. Press, University Park. Composition of the I_d -index. Res. Popul. Ecol., 13: 1—27.
- 1972年
5分間単位採集法. 「陸上動物の個体数現存量調査法の研究」(森下正明編), 昭和47年度研究報告, 7—11.
- 1973年
カモシカの数を知る. はくさん, 1: 7—10.
「経済生命表」と食物の「浪費」について. えびの高原野外生物実験室研究業績, 1: 130—139.
- 1974年
令別死亡率の新推定法. 「陸上動物個体群の調査解析法」(森下正明編), 昭和48年度研究報告, 10—15.
京都府のアリ類. 「京都府の野生動物」(森下正明編), 31—33. (小野山敬一と共著)
- 1975年
生残曲線の発展段階. 個体群生態学会々報, 26/27: 12—22.
回転率と P/B および P/B_{max} との関係について. 日生態会誌, 25: 173—184.
- 1976年 (印刷中)
動物の社会. 生態学講座, 18. 共立出版, 東京.
生残曲線のあらわし方. 「今西錦司古稀記念論文集」(梅棹忠夫編). 中央公論社, 東京.
Studies on the methods for estimating population density, biomass and productivity in terrestrial animals. JIBP Synthesis. Univ. Tokyo Press, Tokyo.
Estimation of population density of the Japanese Serow, *Capricornis crispus* TEMMINCK, by the pellet and pellet-group count methods. Ibid. (with MURAKAMI, O. & ONO, Y.)

1976年4月15日 印刷

1976年4月30日 発行

編集・発行 森・森下面教授退職記念事業会
京都市左京区北白川
京都大学理学部動物学教室内
(振替 京都 18492)

刊 行 生 理 生 態 刊 行 会
印 刷 新 美 印 刷 株 式 会 社
大阪市北区天神橋筋1丁目102
京都市北区小山花池町1の8

定価 8,000 円